



11月28日(金)の予定
留学生スピーチコンテスト

12月5日(金)の予定
雑誌評論、会員卓話

委員長／福田雅春

副委員長／北澤清隆 委員／土屋久
松山志基 百瀬敏男 太田隆治



通常例会

司会

点鐘 12:30

国歌「君が代」「奉仕の理想」 齊唱



【今月の祝・表彰】

☆会員誕生：井上保君、北村孝一君、土屋久君

☆夫人(配偶者)誕生：内山真由美君、清水一彦君

☆結婚祝：中田金一君、吉池裕一君、小畠啓君、高木守君

ホテル・ブエナビスタ

百瀬敏男会場監督委員

村山智計会長

**【ゲスト】米山獎学生
鄭 佳妮(テイ カニ)様**



会長挨拶

11月に入り、朝晩の冷え込みが一段と増してまいりました。季節の変わり目ですので、どうぞお体にお気をつけてください。

村山会長

まずは10月29日に行われた「留学生による日本語スピーチコンテスト」選考会にご協力くださいました皆さんに、心より感謝申し上げます。今回は多くの応募があり、応募内容を拝見する中で、それぞれの思いや努力がしっかりと伝わってきて、大変嬉しく感じました。こうした国際交流の機会が、私たちロータリークラブの掲げる「異文化理解」と「平和の推進」に確実につながっていると改めて思います。

今月は「ロータリー財団月間」です。ロータリー財団は単なる寄付の集まりではなく「与えたものが巡り、また次の奉仕を生む」という循環の仕組みです。例えば、私たちが行う寄付の一部は3年後、地区補助金やグローバル補助金として再びクラブに戻り、地域の奉

仕活動や海外支援プロジェクトを支える原資となります。この“未来への投資”的考え方こそが、財団の最も特徴的な点であり、継続的な奉仕を可能にしています。寄付は、額の大小ではなく、思いの共有から始まります。今月はぜひ、クラブ全体で「財団の理念を自分の言葉で語る」機会にしていきたいと思います。

幹事報告

吉池幹事

- 1 11月のロータリーレートは1ドル154円です。
- 2 信州松本空港冬期利用促進助成金制度について、希望の方は事務局までお問い合わせ下さい。
- 3 例会変更については、引き続き現在どのクラブでもビジター受付は実施されていません。ご了承下さい。

出席委員会報告

永田委員

本日11月7日 欠席8名 出席率約73.3%

ニコニコBOX報告

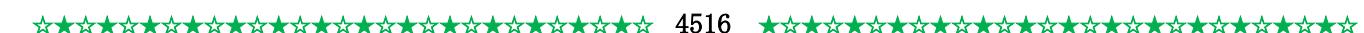
小畠委員

- ・今月で米寿になりました。北村君
- ・10月12日に会社の防災公園竣工に伴い、地域の皆様と防災訓練を実施しました。井戸も掘りましたので是非お立ち寄りください。百瀬正容君
- ・本日雑誌評論します。齊川君
- ・本日R財団特集の発表をします。越場君
- [会員誕生]北村君、井上君、土屋君
- [結婚記念]中田君、吉池君、小畠君、高木君
- [夫人誕生]清水君 [前回欠席]三澤君
- [写真掲載]村山君、太田君、百瀬敏男君

☆☆☆ 本日のプログラム ☆☆☆

【雑誌評論】齊川賢太委員

雑誌評論を初めて担当します。まず、3ページ目のRI会長メッセージ「感謝の気持ちを寄付で伝えよう」では、ロータリー財団月間の意義と寄付の意味が強調されています。11月は単に寄付をするだけでなく「なぜ寄付するのか」を考え





る機会であり、資金提供に留まらず、信頼と友情に基づく奉仕活動を通じて持続可能な社会変革を推進しています。

ロータリー行動計画は「より大きなインパクト」を求めてお

り、財団はその実現手段です。1988 年以降、ロータリーとパートナー団体は約 30 億人の子どもにポリオ予防接種を実施し、26 億ドル以上を投入。昨年も 1 億 4,600 万ドルが使われました。数字以上に、子どもたちが病気を恐れず暮らすこと、家族が希望を取り戻すこと、地域社会に平和が訪れることが本当の価値だと述べられています。

今回の評論を通じて、私はポリオやロータリーの活動について初めて深く学びました。ポリオは5歳以下の子どもがかかりやすく、重症化すると手足の麻痺や命に関わる感染症です。ロータリーは1985年以来、30億人以上にワクチン接種を支援し、症例を99%以上減少させ、ポリオ根絶を最優先課題として取り組んでいます。ロータリーのリーダーシップによって「二度とポリオを恐れる必要がない世界」に近づいていることを知り、意義深い経験となりました。

20ページには、ビル・ゲイツ氏の「今後20年以内に自身の資産ほぼ全てを寄付する」とのインタビュー記事が掲載されています。ゲイツ財団は今後20年で約30兆円を支出し、2045年に活動終了予定です。主な使途としてAIを活用した医療アドバイスの提供など、デジタル技術が戦略の中心になると語られています。これまで25年間で1,000億ドル(約15兆円)を拠出しており、合計45兆円は日本の国家予算の約4割に相当します。ゲイツ財団25周年については、ポリオ根絶やエイズ、結核、マラリアなど多くの病気との闘いを通じ、11億人の子どもにワクチンを届け、小児死亡率を半減させ、8,000万人以上の命を救ったことが誇りとされています。今後も最大効果が期待できる分野に資金を集中し、科学者や医療従事者などと連携し、地域社会が自立して課題解決に取り組めるよう支援していく方針です。

ポリオ根絶については、イノベーションや世界的な協力により症例数は 99%以上減少し、継続的なコミットメントで必ず根絶できると確信されています。政治・経済の不安定な状況でも、各国政府や地域社会、インフルエンサーと協力し柔軟に対応しています。最大の教訓は、進歩が協力によってもたらされることであり、ロータリー会員の貢献が不可欠だと述べられています。

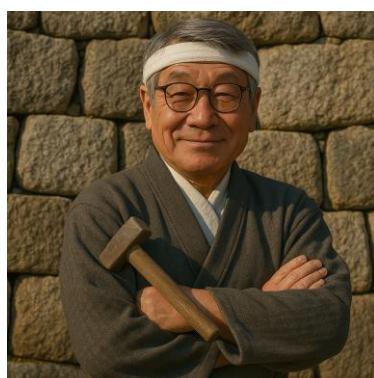
今回の雑誌評論を通じて、私はロータリー財団の活動やビル・ゲイツ氏の取り組みに触れ、世界の現状や課題、そしてそれに立ち向かう人々の努力について多くの学びがありました。ポリオ根絶や平和構築、貧困削減といった壮大な目標に向けて、国際的な連携と個々人の貢献がどうして世界を変えるのか、そのしくみを理解することができました。

れほど重要か、また、困難な状況でも希望を持ち続け、協力しながら前進することの大切さを改めて認識しました。寄付や社会貢献は、私たち一人ひとりができる行動であり、未来をより良くするための力となります。ロータリー財団月間をきっかけに、改めて社会や未来への貢献について考え、感謝や希望を形にすることの意義を強く感じました。持続的な寄付や協力が、より良い世界を築く原動力となることを、今後も忘れずにいたいと思います。

【R財団月間特集】 越場達祐委員長



1905 年にポール・ハリスが中心となり創設されたロータリークラブから 12 年後の 1917 年に国際ロータリークラブ連合会の会長アーチ C. クランフ(クリープランド RC)の「寄付による基金をロータリーで作り、世界規模で慈善、教育、その他の社会分野で何か良いことをしよう」提唱から始まりました。当初はなかなか理解されず最初の寄付はカンザスシティ RC からの 26 ドル 50 セント(日本円で 4000 円)だけでした。それから 6 年後でもやっと 700 ドル(日本円で 10 万 5 千円)に過ぎませんでした。時がたち 5000 ドル(75 万円)迄増え国際ロータリーからロータリー財団として独立した別機関になりました。1929 年初の補助金 500 ドル(7 万 5 千円)を「身体障害児童保護国際協会」に贈りこれがその後の財団の方向性を「障害のある人の為に、困窮している人の為に、そして青少年の為に」決定づけました。時が経ち 30 年の間ロータリー財団はなかなか寄付が集まらず苦しい状況が続きましたが 1947 年にロータリー創設者ポール P. ハリスが亡くなると 70か国 30 万人以上のロータリアンが彼の死を悼み偉業を称え多くの寄付が集まり財団は「ポールハリス記念基金」を設け 130 万ドル(日本円 1 億 9 千万円)の基金を軸として発展を遂げるようになる。1985 年ポリオプラスプログラムの設置がさらなる発展をもたらし現在に至る。最後に現在ロータリー財団の収取について収入は 360 億(内訳主に年次基金 124 億、ポリオ関係 128 億、恒久基金 26 億、特別基金 24 億、投資収入 38 億など)、支出 337 億(主な内訳ポリオプラス 151 億、グローバル補助金 86 億、地区補助金 26 億、経費 54 億など)となっています。



【点鐘 13：30】

今週の笑顔さん ★ 大工の利さん！

村山会長